

## 平成27度 事業の経過

保育	0・1歳児の入所が多かった中、保護者との交流・信頼関係を築きながら、いろいろな経験を積み、生活習慣を身に付けていく事で、たくさんの成長ができたと喜んでもらえた。
出張保育	住民健診の託児は、若い母親の健診参加率が増え、喜ばれている。又、例年のとおり保健センター・幼稚園・コミセンの出張保育の他、11月から新たに発達支援センターが、8回程の回数が加わった。
子育て支援短期利用	4回利用があった中で、2泊するケースもあった。又、乳幼児に加え、小学生や高校生の利用もあった。
あつたか広場(地域事業)	参加者は少なかったが、参加されたことにより一時預りや月極保育へとなったり、入所児との交流にも繋がった。
布引第Ⅰ、第Ⅱ子どもの家	けん玉に興味を持って取り組む子が多い年となった。特に夏休みにはけん玉の先生に来て頂いた影響で、その子なりの新記録がたくさん出た。
山上子どもの家	当初、低学年同士の衝突が多く見られたが、今ではそれが珍しいくらいにまでなり、喧嘩をしてもしっかりと謝ることができ、それぞれが成長してくれた。
市原子どもの家	基本的な生活習慣が少しずつ身につき、挨拶は自然にできる様になった。友達関係も一人ひとりを受け入れつつ、自分の意見も主張できる雰囲気に落ち着きつつある。クリスマス会を自分達で計画をして、楽しい会が持てた。
愛東南子どもの家	梅干し作り、座禅、しめ縄作りなどで、人間力を学びながら、ご当地映画「ちよこっとバス」に出演させてもらったり、いろいろなすばらしい体験ができた。
沖野学童保育所	[よいことのわ]を増やしていこうと取り組んだことは、友達の良いところを見つけたり、自分の頑張りを認めてもらう機会ができ、いろいろなことに挑戦する励みとなった。又、優しさの良いことは、指導員が気付けるように知らせて紙に貼っていった。
湖東第三子どもの家	始めは、低学年が多く、学童内の雰囲気もバラバラであったが、3・4年生を中心にお楽しみ会などを計画し、協力しあいながら行事を楽しむことができた。
訪問介護	病院を退院され、自宅で過ごしたいという利用者が増え、他事業所や訪問看護と連携して支援することが出来た。
グループホーム	住み慣れた地域の中で、住み慣れた自宅のように居心地良く暮らして頂けるよう努めたい。(集団生活の楽しさを知る)又、家族の様に大切な人を介助させて頂いていることを一人の方の入院でわかる。(看取りの大切さも知る。家族の方から大切な方を見させて頂いている気持ちを忘れてはいけない。)
小規模多機能型居宅介護	水分摂取・便秘解消のための取り組み、服薬による体調の変化の見極めなど、体調管理をきめ細やかに行つたことで、健康維持・認知症の症状の緩和などに繋がった。又、認知症カフェ開催、生活支援サポーターへの参加等々、地域での活動の基礎ができた。
居宅介護支援	○平成27年度中に支援させて頂いた利用者:計41名(在宅38名、サービス付き高齢者向け住宅3名)、○月平均利用者数33名、○新規契約計9名(退院・退所2名、他ケアマネージャーからの引継ぎ2名)、○解約計11名(入院2名、特養・老健等施設入所5名、死亡1名、サービス利用不要3名)、○介護状態区分変更(1)要支援→要介護3名、(2)要介護→要支援1名、(3)要支援→自立1名
ホームヘルプサービス	介護保険では、認められない自費サービス部分での利用依頼に対応して、安心して頂くことができた。

平成27年度 利用状況表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小規模多機能型居宅介護	月利用人数	19	15	14	15	16	17	18	19	18	17	20	18
居宅介護支援	要支援者数	13	13	13	14	13	15	13	13	12	12	12	155
訪問介護	要介護者数	20	21	22	22	19	20	22	21	19	19	18	19
グループホーム	月利用人数	13	12	15	13	11	13	13	17	15	15	15	167
出張保育	件数	4	5	5	7	4	6	8	10	13	17	14	104
保育	延べ時間数	8.00	16.50	17.00	35.00	8.00	21.00	38.00	41.75	28.00	74.50	30.00	21.50
	月極人数	3	3	5	4	3	2	3	5	7	7	7	56
	一時預り人数	4	5	3	4	4	3	7	3	8	4	5	6
子育て支援短期利用	延べ時間数				1		1			1	1		4
あつたかか広場	参加人数	6	1	2	0	6	8	8	9	1	3	2	1
布引第Ⅰ子どもの家	月極人数	40	40	42	40	40	39	39	39	39	37	36	470
布引第Ⅱ子どもの家	月極人数	27	27	26	24	24	25	25	25	24	24	23	298
沖野学童保育所	月極人数	21	20	20	20	18	18	18	16	16	16	14	217
山上子どもの家	月極人数	37	36	36	37	37	35	31	31	30	30	29	397
市原子どもの家	月極人数	10	10	10	10	11	11	11	9	10	10	10	122
愛東南子どもの家	月極人数	21	21	21	21	21	21	21	21	20	18	18	245
湖東第三子どもの家	月極人数	21	21	18	18	18	18	18	17	17	17	17	221
ホームヘルプサービス	月利用人数	6	6	6	5	8	4	5	3	4	3	2	3
グループピービング	月利用人数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36

## 平成28度 事業の方針

出張保育	母親が安心して、いろいろな学習に参加していくように、保育士間で連携をとりつつ、楽しい保育になるよう心掛けたい。
子育て支援短期利用	虐待予防のため、急に親と引き離した方が良いケースが、年々増加傾向にある。親子共に気持ちを落ち着かせ、次の頑張りに繋げられるように対応していきたい。
布引第Ⅰ、第Ⅱ子どもの家	気にかかる子が在籍している中、みんなで集団生活をしていくために、子どもの様子をよく見て、話をよく聞いてやり、スタッフ同士の連絡や話し合いを密にして、保育の方向性をまとめ、安全で楽しい学童生活を過ごしていくようにしたい。
山上子どもの家	学年同士だけではなく、もっと上下の関係を深められるような場を作っていきたい。
市原子どもの家	小学校と連絡会を持つことでひとり一人の姿の共有。通所してくる子ども達が自己肯定感を高める声掛けにより、お互いを認め合える場つくりに努める。子ども達の主体性を育てる遊びを見守っていきたい。
愛東南子どもの家	家庭的な雰囲気の中で、縦の関係を大切にし、社会に出ても役立つような、人間力を学習しながら、一日一日を大切に過ごす暖かい、居心地の良い場所でありたい。
沖野学童保育所	ひとり一人が相手のことを思い考えられるように、昨年の良いこと+α[うれしかったことのわ]に取り組む。うれしかったことをシールで貼り、目に見える取り組みにする。「優しさに」気付けるようグループホームさんとも交流していきたい。
湖東第三子どもの家	異なった年齢の子ども達の交流を大切にして、どの子も放課後をのびのびと過ごせる場についていきたい。
訪問介護	出来る限り在宅で過ごしたいという希望に対して、安心して過ごして頂けるように、柔軟に対応しながら支援していきたい。
グループホーム	集団生活の中で、利用者さんの一人ひとりの気持ちに寄り添い、その人の出来ることを引き出し、生き甲斐へと繋げていきたい。又、「認知症・看取り介護とは」を学びスタッフの力を高めていきたい。
小規模多機能型居宅介護	利用者の「以前の暮らし方」の把握をさらに深め、自宅、事業所において、その人らしい暮らし方が、長く継続できるように支援していきたい。又、地域の活動を拡げていくとともに、利用者の活動・社会参加に繋げていきたい。
居宅介護支援	介護保険制度の利用者本位・自立支援の精神に則り、できる限り本人が望む地域での生活を継続できるよう、又、同時に家族の負担を軽減し、良好な家族関係を継続できるよう支援していきたい。
ホームヘルプサービス	介護保険制度で補えない部分を、ホームヘルプサービスを通して、利用者をサポートしていきたい。